

No.7 多発している建築物、構築物 - 墜落・転落の死亡災害事例（2021年）

2021年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者 規 模
12	12～14	被災者は、火力発電所のボイラー煙道内部における煙道と煙突との境界部分で、下請事業場所属作業員の作業状況を確認中に煙道から高さ7.3メートル下の煙突底面へ墜落したものの。	30309	418	1	1～9
11	8～10	被災者は集じん室に集積された木屑の上でスコップを用いて木屑をならしていたところ、生き埋めとなったもの。集じん室とは木材加工で発生した木屑を集積する縦横約4メートル、高さ約6メートルの建屋である。	10401	418	1	10～29
10	8～10	ビル玄関前スロープ付近で頭部及び鼻から血を出している被災者を他事業場職員が発見。被災者が清掃に入った5階事務室は、生体認証及びセキュリティーカード入室する仕組みであったが、当該社員のカード不良によりマスターキーで入室し、アンチパスパック（退出時には入室とおなじカードをかざして退出する仕組み）により退出できない状況になったと推測される。	150101	418	1	500～999
9	16～18	農協の支店建築工事の駐車場舗装工事現場において、現場西端部のコンクリート擁壁上を歩いていた被災者が、何らかの原因でバランスを崩して1.3m下の休耕田に墜落したものの。災害発生直後は意識があったが、その後容体が急変し、収容先の病院で死亡した。	30199	418	1	10～29
9	12～	被災者は、建設工事現場1階北東側のフロア上部でEPS室（電気配管区画）のフロア床材敷設作業中、同僚の外国人技能実習生にサnder（素材の研磨等を行う工具）を持ってくるように指示し、同	30201	418	1	1～9

	14	僚が作業場を離れている間、フロア上部（高さ約3m85cm）を移動中に端部から墜落した。				
9	10 ～ 12	体育施設の天井裏において、白熱電球をLED電球に取り替える作業を行うために、被災者がキャットウォーク上を通行していたが、キャットウォークの手すりを超えて天井板上を通行した際に、天井板が外れ、約15.3メートル下に墜落した。被災者は救急搬送されたものの、当日死亡が確認された。	30203	418	1	1～ 9
8	12 ～ 14	小学校校舎屋上の高さ4mの貯水塔で、貯水槽の配管保温材の撤去、新設作業を行うため、配管を支えていた架台を配管から外し、貯水塔から撤去するため、被災者は貯水塔に上り、他2名の労働者が架台を貯水塔から降ろすための昇降設備を設置していたところ、被災者が貯水塔から校舎屋上に転落した。	30203	418	1	1～ 9
8	10 ～ 12	被災者廃校の植栽の管理を行う職員である。被災当日は、北棟裏のひな壇となった隣地との間の雑草伐採作業中に、ひな壇上部（幅0.6m）から隣接する歩道に2.3m転落した。頭部を強打し、脳挫傷等により後日死亡（保護帽未着用）。	140309	418	1	1～ 9
8	10 ～ 12	高さが3メートルほどの擁壁にはしごをかけた状態で、高さが213センチメートルにある擁壁の中段において木の枝を剪定しようとした被災者が墜落した。災害発生時の目撃者はおらず、墜落した箇所は不明である。	80209	418	1	1～ 9
7	14 ～ 16	学校棟外壁他改修工事にて、屋上防水作業の施工管理中、パラペットに侵入した生徒が飛び降りた際、助けようとし約11.5mから墜落した。	30201	418	1	1～ 9
7	14 ～ 16	被災者は、送電線建設工事現場において、高さ約59mの中間鉄塔の頂部付近で、鉄塔間の架線中に金車（ロープで吊った滑車）から架線用ロープが脱落しないよう監視する作業に就くため、一人で当該鉄塔に登った。約10分後、無線での呼びかけに応じない様子を見に行った作業班長らが、鉄塔下の地面に墜落している被災者	30301	418	1	10 ～ 29

		を発見したもの。被災者はフルハーネス型の墜落制止用器具とU字 つり腰ベルトの2丁を着用していた。				
6	18 ～ 20	被災者が、当該事業場4階建て新館の屋上端（防護フェンスの外 側）にて、側溝に生えた雑草の除去作業を行っていたところ、地上 に墜落して死亡したもの。翌日、出勤した同僚の労働者に、保護 帽、墜落制止用器具の装着がない状態で発見された。	130101	418	1	100 ～ 299
6	14 ～ 16	道路の拡幅工事において、被災者は拡幅部分の土砂の均し作業を 行っていたところ、何らかの拍子で道路端部から深さ4.2mの川 底に墜落したもの。	30106	418	1	1～ 9
5	14 ～ 16	3階建てマンションの雨漏り調査のため、当該マンション2階の個 人宅の出窓から身を乗り出して外壁の雨漏り部の写真を撮っていた ところ、墜落した（墜落高さ：約5m）。頭部出血により死亡。	80409	418	1	1～ 9
5	12 ～ 14	災害発生当日の午前中、被災者は同僚に屋上で修繕の作業を行うこ とを伝えて、1階のフロントを離れた。午後になっても、被災者が 戻ってこないことを同僚が不審に思い、屋上に赴いて確認したが、 被災者の姿が見えなかった。風が強かったことから同僚が屋上の端 から地上を覗き込んだところ、屋上から約30メートル下の2階バル コニー部分に倒れている被災者を発見した。	140101	418	1	10 ～ 29
4	10 ～ 12	被災者は、建造途中の貨物船内において、塗装作業を行うため、船 倉の上部構造部分（アッパースツール）の内部を移動中、蓋が開い たままの状態だった開口部から墜落した。当該開口部は、船倉内へ 降りるための垂直はしごの出入口となっていた。	11501	418	1	1～ 9
4	8 ～ 10	墜落防止措置の講じられていないビル3階テラス部端で排水口（高 さ約9.7メートル）の清掃作業を行っていた被災者が地面まで墜 落したもの。	150101	418	1	100 ～ 299
3	8 ～	被災者は高所作業車バケットに乗り込んで上昇し、競輪場ドーム天 井にあるセンターバンク（スクリーン設置設備）に乗り移り、セン ターバンクの手すりのボルト部分を塗装していたところ、一部作業	30201	418	1	10 ～

	10	床がなく開口部となっていた箇所から、約25メートル下の地上床面に墜落した。				29
2	8 ~ 10	解体途中の発電所の四脚鉄塔支持型煙突において、地上から約40メートルの高さの煙突周囲に設置されていたデッキ上で作業を行っていたところ、デッキ下に設置されていた鉄塔支持用の部材の切断作業のためにデッキ床面に開けられていた開口部（129cm×78cm）から被災者が墜落した。	30209	418	1	1~ 9
2	12 ~ 14	被災者が鉄塔のアーム上（高さ約86m）において、塗装作業等に使用する部材の受け取り、取り付け作業に従事していたところ、地上へ墜落したものの。	30309	418	1	30 ~ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_38.html